

つくばさん 筑波山にのぼろう！

筑波山臨時ビジターセンターを開設します

「山の日」は山に親しむ機会と、山の恩恵に感謝する日として制定されました。茨城県を代表する山「筑波山」は、昔から「西の富士、東の筑波」と言われ、その美しい姿が多くの人々の心をとらえてきました。

その筑波山を皆さんに広く知っていただくため、8月11日の山の日まで、臨時のビジターセンターを開設し、筑波山の魅力を紹介することになりました。この機会に、日本百名山の中で、私たちに一番身近な筑波山にぜひ登ってみてください。

期間：平成29年8月3日(木曜日)～11日(祝日)【山の日】

時間：10時～16時

場所：筑波山ケーブルカー 筑波山頂駅 2階

内容

- ・筑波山紹介コーナー(筑波山の各種案内)
- ・筑波山なんでも相談
- ・筑波山ショートガイド
- ・クイズラリー(プレゼントがあります)
- ・筑波山自然(植物)観察会 8月5日(土)

事前申込制・定員50人・参加費無料・申込先：筑波観光鉄道(株) TEL029(866)0611

※ 詳しい内容については、茨城県生物多様性センターホームページをご覧ください。



筑波山と生物多様性

筑波山は、生物多様性がとても豊かな山です。さらに、国内希少野生生物に指定された「ツクバハコネサンショウウオ」も氷河期から筑波山に生息しています。

「生物多様性」ってなんだろう？

私たちの住む地球には、1000万種を超えるといわれる多種多様な生き物が様々な環境で生きています。

森の中や山の上、深海など、本当に色々なところでたくましく生きています。このように様々な生物がお互いにつながって、バランスをとりながら生きていることを生物多様性といいます。

例えば、タカが生きていくために、一日にネズミ4匹が必要です。でも、タカが増えすぎると、ネズミは食べられて少なくなります。全てのタカが十分な量のネズミを食べられなくなりました。さあ、このあとどうなるのか考えてみましょう？

「生物多様性を守る」ということ

生物は、生活している場所が広く、生物の種類などが多いほど、災害や病気などに強くなり、元に戻そうとする力が大きくなります。それこそが生物が多様であることの強みであり、それを守ることが、これからのわたしたちの生活を守ることになるのです。

「生物多様性の恵み」（生態系サービス）

たくさんの生き物がつながりあって生きていることで、私たちはたくさんの恵みを受けています。この恵みをこれからも受けていくためにも、生物多様性を守ることが大切なのです。

「生物多様性」をおびやかす外来種

外来種とは？

（外）もともとその場所にいないくて

（来）人の活動（荷物にまじったり、ペットとして輸入など）によって
国外から連れて来られた

（種）動物や植物のこと

*その中でも注意を要する生物（特定外来生物）

もともと住んでいた生き物たちに深刻な被害をもたらすおそれのある外来種
<アライグマ・オオクチバス・オオキンケイギク・ミズヒマワリなど>

特定外来生物による被害を防ぐためにできること

入れない!

すてない!

ひろげない!

主催・お問い合わせ先

茨城県生活環境部環境政策課 TEL 029-301-2946・2940

※ 詳しい内容については、茨城県生物多様性センターホームページをご覧ください。